

第12期資源調査分科会の検討課題の対応状況について

第48回資源調査分科会（令和 5 年 4 月 26 日）で示した「第12期資源調査分科会の検討課題」について、食品成分委員会で検討を進めた状況等は以下のとおり。

1. 日本食品標準成分表の次期改訂方針やあり方について

第25回食品成分委員会（令和 5 年 12 月 5 日開催）において、以下のような方針を内容とする「今後の分析食品の考え方等について」（以下「委員会取りまとめ」という。）を整理。

- ・ 主要な食品の未収載成分（食物繊維（AOAC. 2011. 25法）、アミノ酸組成、脂肪酸組成、利用可能炭水化物組成等）の分析、分析結果に基づく成分値の検討、収載値案の確定が終了した段階で食品成分表を取りまとめ、公表
- ・ 令和 6 年度以降、現在の流通実態に即した食品成分表となるよう、収載食品の再分析を重点的に実施
- ・ 再分析に当たっては、国民健康・栄養調査等を参考に、たんぱく質・脂質・炭水化物の寄与度が上位の食品、摂取量が上位の食品等を優先

2. 収載食品の更新・充実について

(1) 食品分析について

- ・ 令和 5 年度の食品分析に関する委託事業を実施
- ・ 令和 6 年度の食品分析に関する委託事業を実施中
- ・ 令和 7 年度の分析食品リスト案を検討

上述のとおり、委員会取りまとめに基づき、優先すべき食品の再分析を中心に検討。

(2) 収載食品・成分の充実

- ・ 令和 5 年度以前に分析された食品について収載値（案）を食品成分委員会で検討（令和 7 年度中に公表予定）

3. 食品成分データの利活用推進方策の検討と精度・信頼性の向上

(1) システム化について

- ・ 委託事業（令和 5 年度開始）により、分析データの受入れから収載値案の検討、データ提供の一貫体制を念頭にした日本食品標準成分表の次期データベースの調査を実施中

(2) 英語版の作成等について

- ・ 令和5年度の委託事業により日本食品標準成分表2020年版（八訂）の英語版（草稿）を翻訳アプリケーションを主に使用して作成。公表に向けて調整中

4. 国内外動向調査について

(1) 国内動向について

- ・ 関連施策（食品表示、食事摂取基準等）での日本食品標準成分表に関連する事項の検討状況の把握に努め、それらも踏まえた日本食品標準成分表の在り方等を検討中
- ・ 「依頼による食品分析データの受入れについて」（第9回食品成分委員会（平成26年1月24日了解））に基づき、公的機関や団体等からの相談や依頼に対応

(2) 国外動向について

- ・ 令和5年度の委託事業により諸外国等の食品成分データの整備手法等の実情等動向調査を実施
- ・ 令和6年度の委託事業により諸外国等の食品成分データの利活用等に関する動向調査を実施中

●今後の課題について

- ・ 委員会取りまとめに基づいて、日本食品標準成分表の充実等に努める必要。
- ・ 現在進めているデータベースおよび収載値検討システムの構築を完了させ、これを用いた効率的な収載値検討等を始めるとともに、引き続き多様な利用に対する食品成分データの提供や関係者との連携の検討が必要。

(別添)

第 12 期食品成分委員会等の検討状況について

○第十二期食品成分委員会（第 24 回）

1. 日時：令和 5 年 6 月 27 日（火）16:00～16:50
2. 議事
 - (1) 運営規則の確認等について（非公開）
 - (2) 作業部会の設置について（非公開）
 - (3) 第12期食品成分委員会について
 - (4) 日本食品標準成分表（八訂）増補2023年の公表について
 - (5) その他

○第十二期食品成分委員会企画作業部会（第 69 回）

1. 日時：令和 5 年 9 月 28 日（木）14:00～16:25
2. 議事：
 - (1) 企画作業部会について
 - (2) 食品成分表の体系的データ構築について
 - (3) 令和 6 年度以降の分析食品の考え方について
 - (4) 今後の食品分析表について
 - (5) その他

○第十二期食品成分委員会（第 25 回）

1. 日時：令和 5 年 12 月 5 日（火）10:00～10:30
2. 議事
 - (1) 企画作業部会での検討事項の報告について
 - (2) 今後の分析食品の考え方等について
 - (3) 令和 6 年度分析食品リスト（案）について
 - (4) その他

○第十二期食品成分委員会企画作業部会（第 70 回）

1. 日時：令和 6 年 10 月 9 日（水）15:00～16:40
2. 議事：
 - (1) 企画作業部会について
 - (2) 日本食品標準成分表に係る当面の作業の進め方について
 - (3) 令和 7 年度の分析食品候補（案）について
 - (4) その他

○第十二期食品成分委員会（第 26 回）

1. 日時：令和 6 年 12 月 17 日（火）10:00～10:40

2. 議事

- (1) 企画作業部会での検討事項の報告について
- (2) 令和 7 年度分析食品リスト（案）について
- (3) 第12期食品成分委員会の調査事項の進捗状況について
- (4) その他

(参考)

令和5年4月26日
資源調査分科会

第12期資源調査分科会の検討課題

第12期（2025年2月まで）においては、日本食品標準成分表の充実・利活用を含めたあり方等の検討を目標として、関連する調査を推進する。

科学技術・イノベーション基本法に基づく科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）において、様々な社会課題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用が示され、その価値創造の源泉となる「知」の創造が求められている。

それらに資するため、科学技術・学術審議会資源調査分科会では、資源の総合的利用に関する重要事項の1つとして、戦後の国民栄養改善の見地から、食品に含まれる栄養成分の基礎的データ集として、昭和25年よりとりまとめられてきた「日本食品標準成分表」を引き続き位置づけ、以下のとおり検討していくこととする。

1 日本食品標準成分表の充実・利活用を含めたあり方の検討

資源調査分科会の下に食品成分委員会を設置し、資源の総合的利用のための日本食品標準成分表の次期改訂方針やあり方について次の観点から検討を行う。

- ・ 日本食品標準成分表の目的・性格
- ・ 収載すべき食品や情報
- ・ 改訂の主旨・公表年度
- ・ 公表の方法

併せて、次期改訂を進めるため次の（1）から（3）の事項を推進する。

（1）収載食品の更新・充実

- ・ 日本食品標準成分表2020年版（八訂）（以下、「成分表2020（八訂）」という。）において約2,500の収載食品数があり、収載食品の更新（メンテナンス）としての再分析、新規食品または未調査成分の分析について、複合食品は計算による収載値の維持を検討しつつ、素材系の食品は摂取量が多さや流通食品の変遷など優先度合いを検討する。
- ・ その際、限られた予算の中で、食品のエネルギーの算出基礎となる成分として、組成成分のアミノ酸組成に基づくたんぱく質、脂肪酸のトリアシル

グリセロール当量、利用可能炭水化物を採用したことによる優先度、また、類似食品からの推計を併用しつつ、食物繊維における 2018 年に見直した分析法に基づく成分分析の優先度にも留意する。

(2) デジタル社会での多様な利用を見据えた食品成分データの利活用推進方策の検討と精度・信頼性の向上

- ・ デジタル社会での多様な利用を見据え、オープンデータの意義等を踏まえた食品成分データとするために、組成成分からの積み上げによる一般成分を決定する手順及び各段階での様式をシステム化するなど必要な検討を行う。更に、関係省庁の利用状況を把握し、我が国における多様な利用に対する食品成分データの適切な提供や連携など利用推進方策を検討する。
- ・ また、食品成分データの精度・信頼性の向上を目指し、国内外の食品成分データの構成や作成方法等について比較検証を行う。
- ・ さらに、多様な利用者のために、成分表 2020（八訂）について、英語版の作成または翻訳機能の活用など検討する。

(3) 国内外動向調査

- ・ 日本食品標準成分表は、食品表示法等でも活用されているところであり、民間を含めた関係団体等の動向や関連施策での検討状況を踏まえ、食品分析データの受入れ・情報提供等の検討のほか、国内での食品摂取を基本に、国外で公表している食品分析データやその利活用についても把握し、今後のあり方の検討につなげていく。なお、国際的な枠組みである FAO との連携について検討する。

2 今後の対応（予定）

資源調査分科会から整理すべき事項を食品成分委員会に示し、食品成分委員会で具体的な議論を行い、次回分科会で結果の報告を受ける。

2023 年 6 月頃	第 12 期食品成分委員会設置
2023 年 6 月～12 月	食品成分委員会にて収載食品の更新・充実等の検討
2023 年 12 月頃	食品成分委員会の開催
2024 年 1 月以降	資源調査分科会の開催